

○議員（16番 島居 真吾君） 今の、やっぱり交通弱者の方は、最後の手段として、なるべくならその医師を、確かに人口が減って財政的にも苦しいと思いますけども、募集をかけて見つけていただきたいと思います。

最後になりますけど、いつも最後の言葉をちょっと市長に、市長がいつも唱えられている誰一人取り残さない対馬を目指します、言われたわけですが、私たちもそれを信用して、それに期待して市長を応援したわけですから、これが最後と言われました。どうかひとつ土産を残してください。お願いします。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、島居真吾君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 昼食休憩といたします。再開を1時5分からとします。

午前11時54分休憩

午後1時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。3番、諸松瀬里奈君。

○議員（3番 諸松 瀬里奈君） 皆様、こんにちは。新友会、3番議員、諸松瀬里奈です。議長のお許しを頂きましたので、一般質問を行います。

今日、まずお伝えしたいのは、まちづくりにおいて、ビジョンがどれほど大事かということです。

まず、ビジョンは何かという点におきまして、私のビジョンに対する、私見ではありますが、述べさせていただきます。

資料をお願いいたします。

ビジョンという言葉は、難しそうに見えますが、本当はとてもシンプルです。

図を御覧ください。

組織のトップが目標と目指す方向性を決め、目標に達した地点、視座の高いところから見える景色をみんなに見せる、それがビジョンだと私は思っております。

言い換えるなら、どこに向かうのかという島の方向性と、そこに着いたときに見える未来の景色、この2つをみんなで共有することです。

図で、方向性が真ん中あたりで、この人が例えば市長だとして、方向性が見えている。そして、目標に達した地点から、この人が、例えば市長だとすると、見える景色、これはみんなで共有する、これをビジョンだと思っております。

方向性だけでは未来のイメージが湧きません。景色だけでも、どちらへ進めばいいのか分かりません。方向性と景色がそろったとき、私たちは初めて同じ未来、同じ方向を見ながら進む島づくりができるようになります。

ビジョンは、行政、市民、議会が、こういう島にしたいんだと共通の言葉で未来を描くためのものです。みんなが同じ方向を見るからこそ、施策と予算の選択と集中ができるようになります。何のための施策か、何のための予算なのかを議論できるようになります。

この図に示した目標設定——山の頂点のところですね——目標設定は、10年後の未来を見通すものに限らず、対馬の夢、理想とも言い換えられるほど、今の現状に即したものでなくても構わないと私は思います。よって、目標がいつ達成されるのかは分かりません。

しかし、目標を設定することで、では、どうやってそれを実現していくのかという本質的な問いが生まれ、今すべきことが見えてきます。

この図で言いますと、目標到達地点から右の黄色い矢印、目標から逆算して、今取るべき施策が分かって、その次の5年後か10年後か分かりませんが、5年後、10年後に取れる施策が見えるということです。

私は、ビジョンをこのように捉えておりますが、よければ、この場におられる皆さんも、ビジョンについて考えていただければと思います。

今日の質問では、10年ごとに設定される総合計画と、これからのビジョンを市長にお伺いしたいと思っております。

2016年から始まった第2次対馬市総合計画は、本年度が最終年度となりました。これまで掲げた政策や各項目の進捗について、市としてどのように総括しておられるのか伺います。

また、施策の成果と課題、進捗率など、市民にとっても分かりやすい形で具体的なデータを用いた説明をお願いいたします。

また、本計画では、2025年の目標人口を2万8,000人と設定しておりました。さらに後期計画では、さらに目標を延ばして、目標人口を3万人と設定しておりました。しかし、現在の対馬市の人口は、10月31日現在で2万6,514人と、目標との差が生じております。この結果を踏まえ、人口減少対策として掲げた施策の効果、課題、そして今後の改善点についてお伺いします。

それから、先ほどの導入で述べましたように、ビジョンは方向性と未来の景色の2つがそろって初めて共有できます。対馬市のこれまでのビジョンは、「自立と循環の宝の島」でしたが、この言葉が市民一人一人に方向性と未来の景色の両方を描かせるものだったのか、改めて問い直す必要があると感じています。

次期対馬市総合計画について、市長はどのような方向性を重視し、10年後の対馬のどんな景

色を描こうとされているのか、対馬をどう活かすのか、そのお考えを伺います。

次に、ビジョンを踏まえた観光分野の今後について伺います。

資料2枚目を御覧ください。このグラフは、長崎県観光統計から一部を抜粋したものです。

一番左の平成13年——緑のみの棒グラフのところ。平成13年（2001年）を最初に持ってきましたのは、観光消費額が令和6年とほぼ同じくらいのところを引っ張ってきています。一番右が、黄色と緑の棒グラフがあると思いますけれども、棒グラフの上に線グラフがあります。9210と数字では書いておりますけれども、これ観光消費額のことです。92億円が令和6年の観光消費額の実績でした。これと同じくらいのところを引っ張ってきましたのが92億2,000万円の2001年のところです。この観光消費額を観光統計で遡れる範囲というものが平成9年（1997年）まで遡れるんですけども、対馬はそれまで観光消費額は毎年更新し続けてきました。この金額がピークになったのが2016年、グラフで言うと、左から2番目の17155と数字があるところです。これ171億円対馬は売り上げております。171億円もの金額を対馬は稼いでおります。この171億円という数字、その年、2016年は、県内で長崎市、佐世保市、雲仙市に次いで、4番目に何と来ております。

ちなみに、去年、2024年（令和6年）の観光消費額92億円は、県内で9番目です。

その次に、私たちが気にかけている人数、これが棒グラフになりますけれども、黄色いところが外国人、そして緑のところが日本人——国内ですね——を色分けております。これは宿泊客実数というところから数字を引っ張ってきております。

2010年代ごろから、対馬市では外国人観光客誘客を積極的に行った成果があって、この黄色いところが2001年は全くほとんどなかった。6,000人ぐらいしか外国人観光客来ていなかったのが、2016年になりますと13万7,000人ほどになって、そしてピークが2018年の29万4,000人、日本人が12万2,000人ですので、合計で41万人、2018年は来ているということになります。

その後、2019年に日韓の国際問題が浮上したことで、この外国人観光客というのが激減し、さらにコロナ禍で客足が全くゼロになって途絶えたものの、最近は釜山からの船の便数の増加によって、外国人観光客が再び大幅に増えております。それが2024年、グラフで言うと、一番右の棒グラフです。

比田勝港国際ターミナルには、1週間に21便、釜山から来ております。ちなみに厳原には1週間に6便来ております。1日最大、比田勝港に2,400人が週末に上陸する日も出てきており、コロナ禍前の状況に戻りつつある中、一方で、ここ数年続けてきた国内誘客の取組の成果もあり、国内観光客数も伸びております。棒グラフで言うと、緑のところが該当するんですけども、2024年は外国人観光客が10万8,000人に対して、国内観光客が14万人と逆転、

2018年と逆転しております。

この県の観光統計のグラフで見ますと、令和6年度は、全体のうちで国内客のほうが多いという結果になっておりまして、対馬市の努力の結果が目に見えて現れております。

さらに、2020年に世界的にヒットした対馬を舞台にしたゲームの影響が今も聖地巡礼という形になって、韓国以外の世界中から来島数が伸びてきております。一応このグラフの中でも韓国人以外の外国人の数を上げているんですけども、このグラフではほとんど現れてきておりませんが、棒グラフの一番上に2とか3とか書いております。これが韓国人以外の外国人の観光客の数です。

この2024年で見ますと、韓国以外の国から2,931人訪れています。そして、その流れは今後も増加すると見られております。

国内からも、韓国のみならず世界中から対馬に訪れる人が増えている、つまり交流人口が増えているというのが現在の対馬観光であり、大変喜ばしいことではあるんですけども、しかしながら、島にはやはり受入れの限界があり、住民生活や観光環境への負担も無視できません。対馬市として、産業全体のバランスとどんな対馬に育てるのかというビジョンを見据えながら、これからの国内客と外国客のバランスをどのように考えておられるのか、市としての方針を伺います。

国内・国外どちらに重きを置くかで、観光分野の施策が変わってくるかと思えます。量だけでなく、島にとって持続可能で、住民生活に配慮した観光のあり方が求められております。今後どのように質を高め、バランスを図りながら観光を推進していくお考えか伺います。

以上、市長の答弁を求めます。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 諸松議員の質問にお答えいたします。

初めに、第2次対馬市総合計画の振り返りと、次期対馬市総合計画のビジョンについてでございますが、第2次対馬市総合計画は、今年度末までの計画であり、最終的な検証は来年度行いますので、昨年度までの検証結果の報告となりますが、本計画においては、「ひとづくり」「なりわいづくり」「つながりづくり」「ふるさとづくり」の4つの挑戦を掲げ、72項目の評価指標——俗に言うKPIを設定し、施策を講じてまいりました。その72個の項目の指標のうち、昨年度末時点で36項目で、目標数値の90%以上を達成しております。

次に、目標人口についてでございますが、全国の人口推移を調査する機関であります国立社会保障・人口問題研究所が出した推計値に、対馬市独自の合計特殊出生率を2.4人とし、将来人口の長期的見通しを設定した上で、人口減少対策の取組を考慮し、2025年の人口目標を3万人としております。10月末の人口が2万6,514人でありまして、目標値と比較しますと大幅に下回っておりますが、先ほど申しました研究所の2025年の推計値2万4,875人に

対しましては、約1,700人程度上回っているところがございます。このことから、一定の効果はあったのではないかと考えております。

次に、この対馬をどう活かすかでございますが、大変難しい言葉だと、また質問だというふうに思っております。宗家に伝わる言葉といたしまして、「島は島なりに治めよ」という言葉がございます。この基本理念の下、対馬は対馬に合った施策として、国境離島対馬の歴史と産業を柱に据えつつ、この対馬の環境に適合した施策を展開し、例えば観光では、歴史、風景を活用した魅力づくりと、それに伴うアクティビティの造成を進めていくことが望ましいと考え、対馬の歴史、風景、自然を守りながら地域産業の活性化と観光の質の向上を同時に実現してまいりたいと考えております。

しかしながら、このことは私のビジョンだけで本総合計画を進めるわけではありません。

現在、第3次対馬市総合計画を策定している最中ではございますが、審議会をはじめ、本部会議、作業部会などで会議を重ね、策定作業を進めております。

また、今回の策定におきましては、人口デザイン会議と題しまして、市民の皆様にも御参加いただき、現状の課題の洗い出し、そして将来を見据えた諸施策案など、様々な御意見を頂き、参考とすることとしております。

本計画の中、長期目標としましては、「心豊かに暮らし続けられる共創・自立・循環の宝島対馬」と掲げ、その実現に向けた基本構想を基に、基本計画を策定してまいります。今後、計画案ができましたら、パブリックコメントを実施し、市民の皆様の御意見を参考とし、第3次対馬市総合計画を策定することとしております。

次に、2点目の国内外観光客の理想的なバランス、今後の対策についての質問でございますが、まず初めに、本市の観光動向や観光客誘致の課題等について御説明いたします。

まず、インバウンド観光につきまして、韓国人観光客数は、平成27年には約21万人でありましたが、平成30年には約40万人に達するなど、増加傾向が続いておりました。しかし、その後の日韓関係の悪化に加え、コロナ禍に伴う国際航路の休止が重なり、令和3年には韓国からの来訪者は、ほぼいないという厳しい状況となりました。

その後、令和5年に韓国との国際航路が再開され、韓国人観光客は令和6年には約19万人にまで回復し、本年は最大で25万人に達する見込みであります。韓国人観光客は着実に増加基調となっております。

一方で、インバウンド観光は国際情勢による急激な観光客減少のリスク、宿泊施設・交通手段への負担の増大、さらに文化や慣習の違いによる市民生活への影響などのオーバーツーリズムが考えられます。

国内観光客につきましては、先ほど御説明いたしました韓国人観光客激減を受け、市内観光関

連産業の安定化を図るため、国内観光客の誘致に重点的に取組を進めてきた結果、令和3年度以降は国内の旅行先として、本市の認知度は高まりつつある状況でございます。

国内観光客の誘致については、海外情勢や感染症の流行といった外的要因に左右されにくいという特徴がございます。また、地域経済への波及効果はインバウンド観光と同様に期待できることに加え、需要が比較的安定していることから、地域にとって継続的な観光収入をもたらす効果があると考えております。

一方で、課題といたしましては、本市が離島であることから、旅行費用が比較的高額となりやすい点に加え、効果的なプロモーションの強化など、観光客を呼び込むための受入環境整備が必要である点が挙げられます。

次に、本市の観光キャパシティについて申し上げます。

本市の宿泊施設の最大収容人数はおよそ4,000人でございますが、これは施設の同時宿泊可能人数であり、実際には全ての客室が常時フル稼働しているわけではございません。その結果、一部の国内旅行会社からは、宿泊施設の確保が難しくなっているほか、観光バスの手配も厳しい状況にあるとの御意見を頂いているところでございます。

こうした状況等を踏まえ、韓国人観光客につきましては、国際ターミナルなどの島内における受入れキャパシティを考慮いたしますと、過度の増加は望ましいものではなく、現在程度の観光客数を維持していくことが、オーバーツーリズム抑制の観点からも適当であろうというふうに考えております。

次に、国内観光客については、航空機を利用したチャーターの運行やクルーズ船の誘致、本市への旅行商品の造成や国内向けプロモーションの強化、さらに満足度向上に向けた市内観光関連事業者への支援といった施策を展開し、国内観光客誘致に向けて取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 3番、諸松瀬里奈君。

○議員（3番 諸松 瀬里奈君） 市長、御答弁誠にありがとうございます。観光分野のビジョンまで市長に示していただいて、私もうれしく思っております。特に歴史の分野、対馬の歴史、そしてこの自然を活かして観光分野に活かしていきたいというお言葉は、私も同じ思いで、同じ姿勢であります。特に私は個人的にというか、ガイドとして思うのは、対馬の浅茅湾は、やっぱり世界に誇れる海だと思っておりますので、この対馬の浅茅湾を大事に観光に生かしながら、この地域産業振興に皆さんと一緒に活かしていかなければなと思っております。

ビジョンにつきましては、まだ計画が策定中ということですので、今何をすべきか、そして何を優先すべきかというところがおのずと見えてくるような、この対馬市総合計画を策定をお願いしたいと思っております。

2点目に参ります。

市長の答弁、韓国からの観光客と日本国内の観光客、それぞれバランスを取りながら現在の人数を維持するということ所で御答弁いただきまして、私も対馬のキャパシティを考えると、今が一番ちょうどいいのかなと、バランス的にですね、人数的に思っております。ここからどうやって対馬の観光振興を発展させていくのかというのは、やはり図に示しました棒グラフではなく、折れ線グラフの観光消費額を上げていくのが、やはりいいのかなと思っております、1人当たりの客単価といえますか、この観光消費額をいかにして上げていくのかというところが、軸足に今後考えていかなければならないのかなと思っております。

現在の対馬市の総合計画のKPIでは、人、交流人口を増やすために何人来ていただくかというところをKPIに据えて見ているかと思えますけれども、今後の対馬市総合計画では、この観光消費額をKPIに据えた見方というか、捉え方をしていただけるといいのかなと思ひまして提案させていただきます。

関連質問で、市内の二次交通について伺いたいと思うんですけれども、市内で利用される二次交通のほとんどが市営バスとタクシーで、比田勝—巖原間の長距離移動は、多くの方が比田勝港や巖原で市営バスの1日フリーパス券を購入されております。市営バスの1日フリーパス券は、どなたも今1,040円でずっと運用されているかと思ひます。そして、この半端な40円、1,040円の40円、特に外国の方は両替に大変苦勞されておひまして、釣銭を用意する側も、結構釣銭切れの対応に追われております。クレジットカードが使えるようになっておりますけれども、この券売機が設置されたことによって、大分改善はされているかと思ひますが、券売機でも釣銭切れが度々起こっているそうです。

そこで提案ですけれども、釣銭切れによる負担の軽減と利便性の向上のため、料金を切りのよい数字にして、島民は島民割引を適用して40円引きの1,000円、島民以外は2,000円で運用するのはいかがでしょうか。破格だと思ひますね、1,040円というのは。破格の1,040円から一気に島外のお客さんが2,000円になったとしても、元々のこのバスの片道の運賃が4,000円近くするので、1,000円から2,000円に変わったところで、お得感はそのそんなに変わらないと思ひますが、いかがでしょうか。

外国人観光客の大半は比田勝から巖原に向かいますので、しばらくは、ここ数年は人の流れは続くかなと見ております。国からの補助金との兼ね合いもあるかと思ひますけれども、今、人の流れが生まれております。そして、補助金で運営するよりも利益が出るようにバスを運営するほうが、より健全ですし、資金を設備投資や賃金に回せる余裕も生まれるかと思ひます。運行管理はもちろん対馬交通株式会社さんなんですが、何か所見がありましたら御答弁をお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 2点ほど質問があったと思いますが、そのうちの、何とかこうとちゅうのがちょっと……（「二次交通ですかね」と呼ぶ者あり）ああ、二次交通。そこがちょっと、はっきり、すみません、聞き取れませんでした。

まず、観光消費額をK P Iに設定することは考えてないかといったような御質問だったようでございますけども、今度の第3次の対馬市総合計画におきましては、この観光消費額をK P Iに設定することも考えてまいりたいと思っております。

そして、2点目の二次交通のバス運賃の件なんですけども、私のところにも、今1,040円ということで、この40円の釣銭がなかなかちょっとうまく対応ができていないので何らかの改善をという声が聞こえてきております。

そこで、内部でいろいろと検討を重ねているところではございますけども、先ほど議員がおっしゃられたように、この島民とインバウンド観光客、これの値段というか、バス運賃を変えることについては、ちょっと運輸局のほうに相談をしたところ、それは好ましくない。あくまでここは公平にしくちやならないということで、ちょっとここは断念せざるを得ないということでございました。

そこで、今後、島内のお客様も含めて、このバス運賃を切りのいい値段にするべきではないかということで、今内部でも検討を進めているところでございます。

○議長（春田 新一君） 3番、諸松瀬里奈君。

○議員（3番 諸松 瀬里奈君） 市長、2問の御答弁ありがとうございます。

まず、観光消費額をK P Iに入れるという御答弁というか、検討しているというところで御答弁いただきましてありがとうございます。

2問目の、バスの1,040円を傾斜をつけるというところでお問い合わせもいただいたというところで、料金は公平にしなければならないので、差をつけるわけにはいかないという御答弁を頂いたと解釈しております。この40円を釣銭を用意する側にとってはすごく大変で、対馬交通株式会社さん、小浦にあるんですけども、釣銭切れたときに、10分、15分かけて、このバスのターミナルのところに来ていただくというところの時間のロスもあるかと思っておりますので、切りのいい数字にさせていただければと思います。

次に、今年の6月にも質問させていただいたんですけども、観光用車両が増加しておりますので、多くのバスやレンタカーが島内を行き来しておりますので、港や空港の駐車場問題がさらに悪化しております。長期間駐車している業務用車両があるとも聞いております。

今年6月の一般質問で、公営駐車場の一部有料化など提案させていただきましたけれども、この問題について、市ではどのようにその後、御対応いただいておりますでしょうか。市民からの要望もかなり多いこの問題について、進捗状況などお聞かせください。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この問題につきましては、ちょっと観光関連と若干少し外れるかなとは思ってはおりますけれども、ただ、今議員おっしゃられるように、確かに港湾、そして空港等の駐車場は混乱をしている状況でございますので、前回の議会のほうでも答弁させていただきましたように、今現在、対馬振興局、そして市のほうと一緒に協力を重ねているところでございますので、このことにつきましては、後で詳しく建設部長のほうから答えさせたいと思っております。

○議長（春田 新一君） 建設部長、原田武茂君。

○建設部長（原田 武茂君） お答えいたします。

空港、港の各施設の駐車場に関しまして、その後の進捗状況ということでございますけれども、これまで県、対馬振興局のほうと協力を実施してきました中で、まずは駐車場の空き状況や混雑状況をしっかり把握することが第一だということの共通認識に至りまして、先月11月1日より、対馬空港につきましては、県の空港管理事務所が、厳原港ターミナルにつきましては、振興局と対馬市が、それぞれ1回ずつの週2回現地を確認するようにいたしております。その後、その現地状況の精査を行った上で今後の対応を考えたいというふうに思っておりますが、間もなくしますと年末年始を迎えます。特に混雑する時期であろうかと思っておりますので、その状況を踏まえた上で、その後に再度協力をやりたいというふうに思っております。

○議長（春田 新一君） 3番、諸松瀬里奈君。

○議員（3番 諸松 瀬里奈君） 御答弁ありがとうございます。現況をまず確認するというところで御答弁いただきました。また、厳原港ですね、週2回ほど現地確認をしていただくというところで、やはり今から年末年始迎えるに当たり、対馬に帰ってこられる対馬のルーツを持たれる方、そしてそこに迎えに来られる御家族の方が殺到されると思っておりますので、なるべくやはり混雑のないように、事故のないように市としても対応をお願いしていきたいと思っております。

時間はたっぷりありますけれども、本日私の一般質問はこれにて終了させていただきます。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、諸松瀬里奈君の質問は終わりました。

---

○議長（春田 新一君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。明日も引き続き、定刻から市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後1時44分散会